

第5期 NBRP・コムギ 第1回運営委員会

議 事 録

日時： 2022年9月6日（火）13:00～15:00

場所：京都大学 農学・生命科学研究棟 農学専攻セミナー室（1）及び Zoom

出席者：23名

（1）運営委員：

（2）松岡 由浩(委員長)、江花 薫子、大田 正次、川浦 香奈子、川本 祥子、小林 正智、佐久間 俊、佐藤 和広、佐藤 豊、辻本 壽、土佐 幸雄、半田 裕一、森 直樹

（2）実施者：

寺内 良平(課題管理者)、太田 敦士、堺 俊之、那須田 周平、新田 みゆき、吉田 健太郎

（3）研究協力者：

竹中 祥太郎

（4）その他

NBRP 事務局：鈴木 智広

NBRP 広報室：高祖 歩美

NBRP プログラムオフィサー/かずさ DNA 研究所

田畑 哲之

議長：松岡

書記：新田

【報告等】

（1）第5期 NBRP・コムギ 組織確認（資料1）

自己紹介形式により出席者全員が紹介された。

（2）2021-2022/2022-2023 年事業計画等の報告

・種子リソース増殖（資料2）

- Nested association mapping (NAM) 集団作成の進捗状況について資料のように報告された。
- 大規模 RIL 集団作成の進捗状況について資料のように報告された。
- 2021-2022 年期中に栽培・収穫した系統について資料のように報告され、系統更新計画（年間約 500 系統）が達成されていることが確認された。
- 2022-2023 年期中の系統更新計画が資料のように報告された。

- ・ 種子リソース配布（資料 3）
 - 2022 年度（8 月末の時点まで）の配布実績について資料のように報告され、目標配布数（約 1,250 系統）が既に達成されていることが確認された。
 - ・ アーカイブ化（資料 4）
 - 資料のように報告された。
 - ・ 学会での活動（資料 5）
 - 資料のように報告された。Wheat Initiative（WI）と Asian Network of Research Resource Centers（ANRRC）の最新の状況について情報提供があった。
 - ・ 寄託の状況について（資料 6）
 - 資料のように報告された。国内からの寄託は順調に進んでおり、目標新規導入系統数（年間約 100 系統）は達成されると見られることが確認された。今後、配布できるようにするための作業を進めることが確認された。
 - 海外からの寄託受け入れについて、主に知財の関連のハードルにより、システム構築が難しいことが報告された。実施者で今後の対応をさらに検討することになった。
 - SMTA でシステムを配布することについて引き続き検討することになった。
- (3) その他
- 2022 年度「ナショナルバイオリソースプロジェクトゲノム情報等整備」への申請について、不採択の通知があったことが報告された。

【審議】

- (1) 第 5 期の事業方針について
課題管理者より第 5 期の事業方針が次のように説明され、了承された。
『フォワードジェネティクス（順遺伝学）を推進するリソース（大規模 RIL 集団）を整備することで、国内外のコミュニティの研究活動を支える。また、得られた成果を発展させ、今後の展開を確かなものにするため、京大学内の実施体制の強化を図る。』
- (2) KOMUGI ウェブサイトの管理運営について
実施担当者と国立遺伝学研究所（川本委員）が連携して管理運営することが了承された。また、ユーザーのニーズを把握する必要性が指摘され、年 1-2 回開催される小委員において、KOMUGI に対する要望等を議論する時間を設けることが提案され了承された。
- (3) その他

なし。

【その他】

(1) 次回小委員会について

2024年3月の日本育種学会講演会に合わせて開催することが確認された。

(2) その他

なし。

以上